

神の愛と正義 神は喜んで愛される

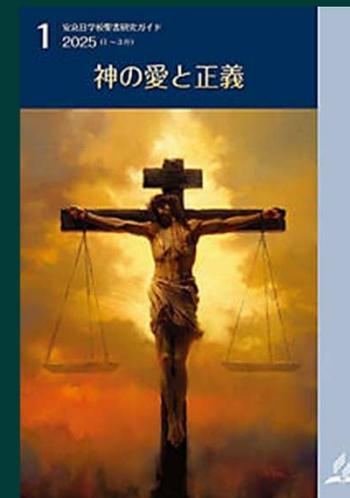


ヨハネの手紙 I 4:9

神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。

ローマの信徒への手紙 3:25

神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。



聖書における「神の愛」と「神の正義」は、神の本質を理解する上で重要なテーマです。

☞聖書には、「神の愛」(アガペー)は、無条件で人間を救う神の無限の愛として記されています。ヨハネ3:16には「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」と、神の愛の極みが記されています。

☞申命記32:4では、「主は岩、その御業は完全で／その道はことごとく正しい。真実の神で偽りなく／正しくてまっすぐな方」と記されおり、神はすべてにおいて完全に義なるお方であり、公正であることが強調されています。

詩編7:12では「正しく裁く神／日ごとに憤りを表す神」、ミカ書6:8には「人よ、何が善であり／主が何をお前に求めておられるかは／お前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し／へりくだって神と共に歩むこと、これである」、またローマ6:23では、「罪が支払う報酬は死です」と、世界秩序を保つ神の完全なる正義は、人間の罪に対する裁きや報いを通じて示されています。

☞神の愛と正義は、神の愛の究極のあらわれである十字架の贖いと復活を通じて、罪を裁きつつも、罪人に対して愛と赦しを提供します(ローマ3:26＝このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです)。

ホセア書14：2～5

イスラエルよ、立ち帰れ／あなたの神、主のもとへ。あなたは咎につまずき、悪の中にいる。誓いの言葉を携え／主に立ち帰って言え。「すべての悪を取り去り／恵みをお与えください。この唇をもって誓ったことを果たします。アッシリアはわたしたちの救いではありません。わたしたちはもはや軍馬に乗りません。自分の手が造ったものを／再びわたしたちの神とは呼びません。親を失った者は／あなたにこそ憐れみを見いだします。」

わたしは背く彼らをいやし／喜んで彼らを愛する。まことに、わたしの怒りは彼らを離れ去った。➡神の変わらぬ愛 **נְדָבָר**

神の民の度重なる反逆のあとに、神はこう宣言されました。「わたしは背く彼らをいやし／喜んで彼らを愛する。まことに、わたしの怒りは彼らを離れ去った」(ホセ14：5〔口語訳14：4])。「喜んで彼らを愛する」という句の中の「喜んで」(英語では“freely”)という言葉は、ヘブライ語の「ネダバー」を訳したもので、自発的にささげることを意味します。これは、聖所の制度における随意の^{ささ}げ物に用いられている言葉と同じです。

王の婚宴 キリストの実物教訓 第 24 章

②婚宴は婚姻と読み替えるものとします。

➤調査審判が天の法廷で行われるのは、人がまだ地上に住んでいる時においてである。キリストの弟子であることを表明するすべての者の生活が、神の前で調べられる。すべての者が天の書物の記録に従って吟味され、その行為によって一人一人の運命が永遠に決定される。

➤たとえの中の**礼服は、キリストの真の弟子が持つ、清くてしみのない品性をあらわしている**。教会は、「しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、」「**汚れのない麻布の衣を着る**」のである(エペソ 5:27、黙示録 19:8)。この麻布の衣は「聖徒たちの正しい行いである」と聖書にしるされている(黙示録 19:8)。**主を自分の救い主として受け入れるすべての者に、信仰を通して与えられるのは、キリストの義であり、キリストご自身の汚れのないご品性である。**

➤婚宴の客は王の検査を受けた。王の命じるままに礼服を身につけた者だけが、受け入れられた。福音の婚宴の客もこれと同じである。すべての者が、偉大な王の厳密な検査を通過しなければならない。そしてキリストの義の衣を着ている者だけが、受け入れられるのである。

➤義とは正しい行いである。そしてすべての者は、各自の行為によってさばかれる。わたしたちの品性は、わたしたちの行いに現れる。行いは信仰が本物であるかどうかを示す。

➤**礼服 the wedding garment** のたとえば、わたしたちの前にきわめて重要な教訓を展開している。**婚姻 the marriage** は、人性と神性との結合をあらわし、**礼服 the wedding garment** は、**婚宴 the wedding** (挙式：結婚式を挙げること) にふさわしい客と認められる者が、みな所有しなければならない**品性**をあらわす。

神の招待に応えることの重要性と、それに対する真摯な態度(マタイ 22:1~14)

招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない(マタイによる 22:14)

For many are called, but few are chosen(Matthew Chapter22:14,KJB).

このたとえ話は、王(神)が息子(イエス・キリスト)の婚姻に招待するために多くの人々を呼び集めたが、招かれた人々の多くがさまざまな理由で招待を拒否し、最終的には招待に応じた者だけが婚姻に参加できたという内容です。

- ① **神の召し** = 神は多くの人々に救いを招いています。→神の国への招待は全ての人に開かれている。
- ② **人々の反応** = しかし、多くの人々が神の招待を受け入れず、自分の関心や価値観によってその招待を拒否。
- ③ **選ばれる人** = 最終的に、神の招待を受け入れ、それにふさわしい行動をとる者だけが選ばれる。
→信仰と行いの重要性を示している(ヤコブ2:17, 22, 24, 26)。
- ④ **信仰の真実** = 表面的な信仰を持つだけでは不十分であり、真に神を信じ、その教えに従う者だけが神の国に入ることができる。

この世界が創られる前に天で合意された贖いの計画

われわれをあがなう計画は、あとで考え出されたもの、すなわちアダムの墮落後に定められた計画ではなかった。それは、「長き世々にわたって、かくされていた奥義」のあらわれであった(ローマ 16:25)。それは永遠の昔から神の統治の根本となってきた原則のあらわれであった。初めから、神とキリストは、サタンの背信と、この反逆者の欺瞞的な力によって人類が墮落することを知っておられた。神は罪が存在するように定められたのではなく、その存在を予見し、その恐るべき危機に応ずる備えをされたのであった。世に対する神の愛はまことに大きかったので、神は、「み子を信じるものがひとりも滅びないで、永遠の命を得る」ために、そのひとり子を与えることを約束された(ヨハネ 3:16)。(各時代の希望 第1章「神われらと共にいます」希望への光P.676)

→ヨハネによる福音書3:16

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

キリストの血による勝利

真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じたものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、**罪の赦し**が書き込まれる (have had pardon entered against their names)。

彼らは、キリストの義にあずかる者となり、彼らの品性は、神の律法にかなったものとなったので、**彼らの罪は、ぬぐい去られ** (their sins will be blotted out)、彼ら自身は、永遠の生命にあずかるにふさわしいものとされるのである。

主は、預言者イザヤによって、こう宣言しておられる。「**わたしこそ、わたし自身のためにあなたのとがを消す者である。わたしは、あなたの罪を心にとめない**」 (イザヤ 43 : 25)。

イエスは、次のように言われた。「**勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言いあらわそう。**」**「だから人の前でわたしを受けいれる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受けいれるであろう。しかし、人の前でわたしを拒む者を、わたしも天にいますわたしの父の前で拒むであろう**」 (黙示録 3 : 5、マタイ 10 : 32、33)。

・・・・・・サタンは、人類をあざむき、誘惑することによって、人類創造における神のご計画を挫折させようと考えた。しかし、キリストは今、人間が墮落しなかったかのように、この計画の実行を求められるのである。キリストは、ご自分の民のために、完全で十分な赦しと義認だけでなく、彼らが、ご自分の栄光にあずかり、ともにみ座につくことを求められるのである。

各時代の争闘: 第28章 天における調査審判

救われた者と滅びる者

全世界の悪人たちは、天の政府に対する大反逆という罪名のもとに神の法廷に告訴される。彼らを弁護する者もなければ、言いわけの余地もない。こうして【永遠の死】の宣告が彼らに下される。

罪の価は高尚な独立や【永遠の死】ではなくて、奴隷状態、滅亡、死であることが、今すべての人に明らかになる。…どの人も自分が天から除外されることが正しいことを認める。…彼らは、神のみ子とそのみ手に、自分たちが今まで軽べつし違反してきた神の律法の板を持っておられるのを見る。また、救われた者たちがいっせいに驚嘆と喜びと賛美の声をあげるのを見る。そしてその歌声の波が城外の群衆にまで押し寄せると、全部の者が異口同音に「全能者にして主なる神よ。あなたのみわざは、大いなる、また驚くべきものであります。万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります」と絶叫し、ひれ伏していのちの君を拝するのである(黙示録15:3)。

～救われた者と滅びる者【要約】 各時代の大争闘 第42章大争闘の終結 希望への光 P.1925～

罪を犯した魂は永遠に死ぬ、それは復活の希望のない【永遠の死】である。そして、神の怒りは静められる(初代文集 経験と幻 小さい群れへ)。

父親の愛の優しい憐れみをもって、神は、人類を【永遠の死】から救うためにみ子が耐えられた苦悩をご覧になり、愛するみ子によってわれわれを受け入れてくださるのである(患難から栄光へ 第20章パウロの第二次伝道旅行)。

全世界の悪人は、天の統治の重大な反逆者として告訴され、神の法廷に立つのだ。彼らは自分たちのしたことに弁護の余地もなければ言いわけもなく、【永遠の死】の宣告がくだされる(生き残る人びと 第65章キリストの戴冠式さばきの庭に)。